

134

ラピッドサイクラーの成因および治療に関する前向き研究

(課題番号 07671091)

平成7年度一平成8年度科学研究費補助金(基盤研究C)
研究成果報告書



平成9年3月

研究代表者 坂元 薫
(東京女子医科大学・医学部・講師)

ラピッドサイクラーの成因および治療に関する前向き研究

(課題番号 07671091)

平成7年度一平成8年度科学研究費補助金（基盤研究C）
研究成果報告書

平成9年3月

研究代表者 坂元 薫
(東京女子医科大学・医学部・講師)

はしがき

平成7年度から平成8年度までの2年間にわたる文部省科学研究費補助金（基盤研究C）「ラピッドサイクラーの成因および治療に関する前向き研究」の研究課題に対して、その研究成果をまとめたのでここに研究報告書を提出する。

研究組織

研究代表者：坂元 薫（東京女子医科大学 医学部 講師）

研究分担者：加茂登志子（東京女子医科大学 医学部 講師）

研究分担者：富高辰一郎（東京女子医科大学 医学部 助手）

研究経費

平成7年度 700千円

平成8年度 600千円

計 1300千円

研究成果

我々は以前の研究 (American Journal of Psychiatry 1994, Tomitaka and Sakamoto)を拡大し、平成7年度よりラピッドサイクラーの成因および治療に関しての前向き研究を行ってきた。これまでに同定した患者は30名で平均1.2年のfollow-up中である。その間のfollow-up中の治療は、リチウム、カルバマゼピン、その他の薬物を用いた。

患者群の中で30名中14名がfollow-up中の最初の1年目にラピッドサイクラーではなくなった。(それらの群ではラピッドサイクラーの持続期間が短い傾向があった)残り16名は今もラピッドサイクラーを続けている。治療に関しては病相頻回状態の継続期間によってリチウム等による治療への抵抗性が異なることを見いだした。またその経過のなかで季節性を示す患者群が存在する(季節性感情障害への移行)ことを報告した。(American Journal of Psychiatry 1995, Sakamoto et al)

また尿中フリーコルチゾールを測定するデキサメサゾン抑制試験(Biological Psychiatry. 1996, Tomitaka et al)により患者の視床下部一下垂体一副腎皮質系を縦断的に調べた。その結果尿中フリーコルチゾールは、うつ状態において軽躁状態より有意に高かった。ラピッドサイクラーの患者は気分の状態により視床下部一下垂体一副腎皮質が変化していることが示唆された(Biological Psychiatry, 1995, Tomitaka et al.)。

以上のようなprospective studyを行うとともにその心理学状況的因子についてもアプローチを行った。分担研究者の加茂はラピッドサイクラーは女性が大半であることから、その不安定性に関して心理学的側面から研究を行った。

研究発表

ア 学会誌等

Sakamoto, K., Nakadaira, S., Kamo, K., Kamo, T. and Takahashi K. ; A longitudinal follow-up study of seasonal affective disorder. Am J Psychiatry, 152:862-868, 1995

Tomitaka, S., Sakamoto, K., Kojima, I. and Fujita, H.; Serial dexamethasone suppression tests y measuring uninary cortisol among rapidly cycling patients. Biol Psychiatry, 38:128-130, 1995

加茂登志子；女性の若い成人期における「私であること」と「女性であること」の葛藤と統合について. 産業精神保険 3 (3): 171-175, 1995

坂元 薫；老年期の躁病・躁状態. 臨床精神医学25:1287-1292 ,1995

Tomitaka, S., Sakamoto, K., Tamura, A., Kojima, I. and Fujita, H. ; Dexamethasone suppression test by measuring spot urinary free cortisol in depression. Biol Psychiatry, 39: 220-222, 1996

坂元 薫；躁うつ病とは一概念と成因, こころの科学, 24-30, 1996

坂元 薫；季節性感情障害と治療. 神経精神薬理, 18: 687-695, 1996

加茂登志子、田村敦子：現代女性と家族内人間関係. 25(8):933-939, 1996

イ 口頭発表

坂元 薫、宮岡 等、藤縄 昭. 精神科臨床における診断をめぐる諸問題. 第91回
日本精神神経学会総会シンポジウム. 1995年5月 (長崎)

富高辰一郎、中平進、加茂康二、加茂登志子、坂元薫、田中朱美、田村敦子、小島
至: スポット尿によるデキサメサゾン抑制試験を用いたRapid cycling affective
disorderの視床下部-下垂体-副腎皮質系の評価 精神薬療基金報告会、1995年12
月 (大阪)

坂元 薫. 季節性感情障害研究の展望と今後の課題、日本生物学的精神医学会シン
ポジウム. 1996年3月 (大阪)

加茂登志子、働く女性のストレスとメンタルヘルス、富山精神保健センター講演、
1996年7月 (富山)

加茂登志子、働く女性のストレスとメンタルヘルス、精神衛生普及会、
1996年10月 (東京)

富高辰一郎 中平進 加茂康二 加茂登志子 坂元薫 田中朱美 田村敦子 藤田寛
子 小島至: うつ病患者におけるスポット尿によるデキサメサゾン抑制試験、第18回
日本生物学的精神医学会、1996年3月 (大阪)

ウ 出版物

坂元 薫, 中平 進 ; Rapid Cyclersの治療 (中山和彦編. 抗うつ薬の科学—基礎と臨床的検証. pp. 139-165.) 星和書店. 東京, 1995